

授業科目	生命倫理学特論		科目コード	111-L	担当教員	新島 典子・加藤 理絵 山北 宣久
科目英名	Advanced Course of Bioethics					
開講期間	1年次 前期	必修科目 1単位	科目区分	基礎科目		
到達目標	動物看護における生命倫理の考え方や応用方法を理解し、自らの言葉で説明できる。					
講義概要	<p>動物看護での主導的な職責遂行には、生命倫理の理解と応用的実践力が必須となる。動物看護の主たる対象である伴侶動物にとどまらず、生命（いのち）を生きるすべての生物への畏敬の念や愛護の精神を、生命倫理の知識を礎に醸成してゆく。動物にかかわる様々な職域における飼い主との関係構築や医療過誤などの諸問題に至るまで、応用的実践における倫理的な対応を修得する。幅広い教養や専門知識を有する動物にかかわる多様な職業従事者として有すべき生命倫理の思想や対応を、実例を踏まえて教授する。</p> <p>本講義では、生命倫理における普遍的で基盤的な諸見識について、山北が担当し、教授する。その後、社会学的な視点から臨床現場や社会における具体的な生命倫理的実践について、新島が担当し、臨床心理学的な視点から死生観の育成支援、及びグリーフケアの理解を深める講義を加藤が担当する。</p>					
授業計画						担当教員
1	生きるということ：今をいきること、クロノスとカイロス、人が生きる人生と人を生かす人生、克服すべき三つのism(egoism, cynicism, mammonism)					山北 宣久
2	いのちをめぐって：プシュケーとビオス、ゾーエー、生命と命といのち、生命の畏敬、A.シュヴァイツァー、SOLとQOL、いのちの三つの価値（創造価値、体験価値、態度価値）、ヴィクトール・フランクルの考え方					山北 宣久
3	死をめぐって：死の現実、Mors Certa et Hora incerta、別離、断絶、審き vs 希望、死に対する姿勢：気晴らし、無視、自死 vs 死を見つめて生き抜く、Memento Mori, Moria ne Moriar, Morior dum Orior					山北 宣久
4	臨床心理学を背景とした死生観育成支援（デス・エデュケーション）					加藤 理絵
5	臨床心理学を背景としたグリーフケアの理解					加藤 理絵
6	愛玩動物飼育における生命倫理的諸問題の社会学的検討					新島 典子
7	高齢飼い主の問題飼育、多頭飼育崩壊にかかわる生命倫理的諸問題					新島 典子
8	高齢伴侶動物の介護、終末期ケア、安楽死にかかわる生命倫理的諸問題					新島 典子
履修上の注意	<p>授業時間外学修として、授業中に紹介する関連書籍などを精読しておくこと。 各種変更や連絡等の掲示、授業参考資料などの配布等に利用するので、Moodleを各自で注意して確認すること</p>					
評価方法（評価基準を含む）	<p>評価法：課題レポート（80%）、授業への参加姿勢（20%）により総合的に評価する。 基準：到達目標の達成度を見るため適宜課題に関するレポートを作成・提出させる。 フィードバック：課題ごとの解説を行う。</p>					
教科書	指定しない。					
参考書、教材等	<p>授業中に、参考書を適宜紹介する。 授業中に、およびMoodleから、適宜、教材プリントを配布する。</p>					

授業科目	動物愛護・福祉特論		科目コード	112-L	担当教員	三井 香奈
科目英名	Advanced Course of Animal welfare					
開講期間	1年次 前期	必修科目 2単位	科目区分	基礎科目		
到達目標						
動物愛護・福祉の概念を理解すると同時に、その分野における課題についても具体的に説明をすることができる。その上で、動物愛護・福祉分野での動物看護師としての役割や実践的な取り組みについて理解し、自らの言葉で具体的な対処方法や課題について説明できる。						
講義概要						
本講義では、動物福祉の概念、愛玩動物の福祉、産業動物の福祉、実験動物の福祉、展示動物の福祉、野生動物の福祉について解説する。動物の福祉上の問題や課題について学び、福祉向上のための方法について学ぶ。その上で、動物愛護・福祉分野において、動物そして人や社会に対しての役割や取り組みについて理解してもらう。						
授業計画						
1	動物福祉の概要①					
2	動物福祉の概要②					
3	動物福祉の概要③					
4	愛玩動物の福祉①					
5	愛玩動物の福祉②					
6	産業動物の福祉					
7	実験動物の福祉					
8	展示動物の福祉					
9	野生動物の福祉					
10	論文講読					
11	論文講読					
12	論文講読					
13	論文講読					
14	論文講読					
15	グループワークとまとめ					
履修上の注意						
特になし						
評価方法（評価基準を含む）						
評価法：課題レポート（60%）、授業への参加姿勢（40%）により総合的に評価する。						
教科書						
指定なし						
参考書、教材等						
授業中に、参考書を適宜紹介する。 授業中に、適宜、教材プリントを配布する。						

授業科目	動物看護学 I		科目コード	211-L	担当教員	今村 伸一郎・梅村 隆志 近藤 昌弘
科目英名	Animal Health Technology I					
開講期間	1年次 前期	必修科目 2単位	科目区分	基礎科目		
到達目標						
動物医療の基礎をなす動物解剖生理学、動物病理学、動物薬理学の研究分野から動物看護学臨床研究分野へつながるよう、基礎研究分野を専門的に掘り下げることにより、両領域において各自が取り組もうとしている研究課題が、どのような位置であるか理解する。						
講義概要						
動物医療における動物看護学の占める学問的位置づけについて研究データを基に明確にする。同時に、今後の動物看護学の発展のために、動物医療における研究法に関する内容について具体的に詳しく教授する。本講義では、動物看護学を学問として発展させるために、基礎の3本柱となる解剖学・生理学、病理学及び薬理学分野の基礎研究について学び、愛玩動物看護師の果たすべき具体的な役割を考える指針となるべく指導する。さらに、それらが、動物看護学研究発展に寄与できるよう教授する。						
授業計画						担当教員
1	動物看護に関連する動物解剖生理学研究分野の紹介					今村 伸一郎
2	解剖学から見た進化論					今村 伸一郎
3	解剖学と生理学の関連					今村 伸一郎
4	解剖生理学の中の疑問					今村 伸一郎
5	骨格標本作製のすすめ					今村 伸一郎
6	透明骨格二重染色標本の意義					今村 伸一郎
7	動物看護に関連する動物病理学研究分野の紹介					梅村 隆志
8	炎症性疾患の病理学的特性と動物看護					梅村 隆志
9	腫瘍の病理学的特性と動物看護					梅村 隆志
10	術後合併症の病理学的特性と動物看護					梅村 隆志
11	病理組織学的パラメーターと臨床症状					梅村 隆志
12	生検材料の病理学的解析の意義					梅村 隆志
13	動物看護に関連する動物薬理学研究分野の紹介					近藤 昌弘
14	薬理研究の基礎					近藤 昌弘
15	動物看護における動物用医薬品等の利用					近藤 昌弘
履修上の注意						
動物看護学における研究分野に広く興味を持つことが何より大事である。 日常からこの分野において問題解決すべき事例や問題点を見いだす姿勢を持って臨んでもらいたい。						
評価方法（評価基準を含む）						
評価法：課題レポート（80%）、授業への参加姿勢（20%）により総合的に評価する。 基準：到達目標の達成度を見るため適宜課題に関するレポートを作成・提出させる。 フィードバック：課題ごとの解説を行う。						
教科書						
特に指定しないが、必要に応じ、指定する可能性あり。 さらに必要に応じて資料を配布する。						
参考書、教材等						
適宜紹介する。						

授業科目	動物看護学Ⅱ		科目コード	212-L	担当教員	鈴木 光行・櫻井 富士朗 花田 道子・小嶋 佳彦	
科目英名	Animal Health Technology II						
開講期間	1年次 前期	選択科目 2単位	科目区分	基礎科目			
到達目標							
動物内科学、動物栄養学、動物繁殖学、動物検査学から臨床へつながる動物看護学を専門的に掘り下げることにより、各領域において各自が取り組もうとしている研究課題が、どのような位置であるか理解できる。							
講義概要							
動物医療における動物看護学の占める学問的位置づけについて研究データを基に明確にする。同時に、今後の動物看護学の発展のために、動物医療における研究法や臨床手技に関する内容について具体的に詳しく教授する。本講義では、動物看護学を学問として発展させるために動物内科学、動物栄養学、動物繁殖学、動物検査学の分野を臨床へとつなげ、愛玩動物看護師の果たすべき具体的役割を考える指針となるべく指導する。さらに、それらが、動物看護学研究発展に寄与できるよう教授する。							
授業計画						担当教員	
1	動物内科学と動物看護学研究					櫻井 富士朗	
2	循環器疾患と全身状態					櫻井 富士朗	
3	慢性疾患に対応する動物看護					櫻井 富士朗	
4	動物の長寿高齢化に対応する動物看護					櫻井 富士朗	
5	動物栄養学と動物看護学研究					花田 道子	
6	代表的疾患の臨床栄養学的対応Ⅰ					花田 道子	
7	代表的疾患の臨床栄養学的対応Ⅱ					花田 道子	
8	動物繁殖学と動物看護学研究					小嶋 佳彦	
9	生殖の内分泌学的・生理学的現象					小嶋 佳彦	
10	動物種の遺伝資源保存と繁殖制御					小嶋 佳彦	
11	動物臨床検査学と動物看護学研究					鈴木 光行	
12	動物の各種疾患と動物臨床検査データ					鈴木 光行	
13	動物の栄養状態と動物臨床検査データ					鈴木 光行	
14	幼若期、青年期、老齢期における動物臨床検査データの特徴					鈴木 光行	
15	新規動物臨床検査技術革新					鈴木 光行	
履修上の注意							
動物看護学における研究分野に広く興味を持つことが何より大事である。 日常から動物医療分野における問題解決すべき事例や問題点を見いだす姿勢を持って臨んでもらいたい。							
評価方法（評価基準を含む）							
評価法：課題レポート（80%）、授業への参加姿勢（20%）により総合的に評価する。 基準：到達目標の達成度を見るため適宜課題に関するレポートを作成・提出させる。 フィードバック：課題ごとの解説を行う。							
教科書							
特に指定しないが、必要に応じ、指定する可能性あり。 さらに必要に応じて資料を配布する。							
参考書、教材等							
適宜紹介する。							

授業科目	動物看護学演習		科目コード	213-S	担当教員	今村 伸一郎・梅村 隆志 櫻井 富士朗
科目英名	Seminar in Animal Health Technology					
開講期間	1年次 前期	選択科目 1単位	科目区分	基礎科目		
到達目標						
動物看護学特論で学修した内容を基に、その分野での問題点を洗い出し、ディスカッション、プレゼンテーションを通して、動物看護学の中で基礎となる分野、特に解剖学、生理学、病理学領域での高度な知識を修得し、さらに動物臨床看護分野における新しい知見に関してその知識を整理し、実践できるようになる力を養う。						
講義概要						
動物看護学領域の解剖学・生理学、病理学、内科学分野における研究課題を紹介し、それにかかわる知見を整理し、ディスカッション、プレゼンテーションを通して、研究の目的、研究技法・装置、結果の具体的内容を把握し、当該分野における研究の意義を理解できるようにする。また、本演習を通じて、各々が修士論文として取り組むテーマについても、動物看護学における意義を理解し、その重要性について掌握できるように教授する。						
授業計画						担当教員
1	動物看護に関連する動物解剖生理学分野からテーマの概要紹介					今村 伸一郎
2	解剖学から見た進化論を考慮した動物看護学に関連する知見を調べる					今村 伸一郎
3	解剖学と生理学の関連を考慮した動物看護学に関連する知見を調べる					今村 伸一郎
4	動物看護学領域での解剖生理学の中の疑問・不明点を調べる					今村 伸一郎
5	骨格標本から得られる知識と動物看護領域のリハビリテーション					今村 伸一郎
6	動物看護に関連する動物病理学分野からテーマの概要紹介					梅村 隆志
7	炎症性疾患の病理学的特性を考慮した動物看護の問題点					梅村 隆志
8	腫瘍の病理学的特性を考慮した動物看護の問題点					梅村 隆志
9	病理組織学的パラメーターと臨床症状との関係					梅村 隆志
10	生検材料の病理学的解析の意義を考慮した採取後処理の注意点					梅村 隆志
11	動物内科学分野からテーマの概要紹介					櫻井 富士朗
12	循環器・呼吸器疾患における動物看護の在り方					櫻井 富士朗
13	慢性疾患における動物看護の在り方					櫻井 富士朗
14	動物内科学でのリハビリテーションの考え方					櫻井 富士朗
15	高齢動物に対する動物看護の在り方					櫻井 富士朗
履修上の注意						
動物看護学とはどのような学問なのか、まず意識しておくことと、その中における種々の問題点を解決する意思、意欲を常に持ちながら臨んでほしい。						
評価方法（評価基準を含む）						
評価法：課題レポート（80%）、討論への取り組み状況（20%）により総合的に評価する。 基準：到達目標の達成度を見るため適宜課題に関するレポートを作成・提出させる。 フィードバック：課題ごとの解説を行う。						
教科書						
特に指定しないが、必要に応じ、指定する可能性あり。 さらに必要に応じて資料を配布する。						
参考書、教材等						
適宜紹介する。						

授業科目	動物人間関係学特論		科目コード	311-L	担当教員	山崎 薫 ・長島 孝行 島森 尚子・村上 隆広 新島 典子・吉川 綾 早田由貴子・小嶋 篤史
科目英名	Advanced Course of Animal-Human Relations					
開講期間	1年次 前期	必修科目 2単位	科目区分	基礎科目		
到達目標						
動物と人間の関係性の視点には、①狩る、飼う（②家畜化、③ペット化）、④動物観の4つがある。動物人間関係学の中の主要なテーマについて、上記4つの視点から課題を考察する。 動物と人間の関係性について、多角的な幅広い視野に立って、課題を提起できることを目標とする。						
講義概要						
「動物と人間の関係性」の主要なテーマについて、狩る、飼う（家畜化、ペット化）、動物観の4つの多角的な視点から、研究を解説し、総合的に理解する。動物人間関係学の4つの視点から、現代社会における動物看護学領域と動物人間関係学領域の両領域から人と動物の関係性を考える。各教員の研究論文、本学図書館所蔵の秋田犬 8 ミリフィルムなどの様々な資料を紹介しながら歴史的、文化的な内容を解説する。先行研究を紹介し、レビューする。アニマルセラピー、日本人と日本犬、文化人類学、社会学、愛玩動物（犬、猫、鳥）の特性などの各分野における幅広い研究手法に基づいて、動物と人間の関係性を解説する。						
授業計画						担当教員
1	多角的な視点から見た動物と人間の関係性					山崎 薫
2	現代社会における動物：イヌの特性を活用した付添犬への取り組み					山崎 薫
3	犬を介在したアニマルセラピーの現状と課題					山崎 薫
4	動物を飼う（家畜化）：秋田犬の家畜化、秋田犬のルーツ、毛色・毛質					長島 孝行
5	現代社会における動物：秋田犬のおかれている現状と課題					長島 孝行
6	現代社会における動物：家庭動物の行動傾向に影響を及ぼす因子					フリッツ吉川 綾
7	現代社会における動物：家庭動物の問題行動予防と動物保護への取り組み					フリッツ吉川 綾
8	動物を飼う（家畜化）：家猫のルーツ、毛色・毛質					早田 由貴子
9	現代社会における動物：家猫のおかれている現状と課題					早田 由貴子
10	動物を飼う（家畜化）：飼鳥のルーツ、羽毛の色・質					小嶋 篤史
11	現代社会における動物：飼鳥のおかれている現状と課題					小嶋 篤史
12	近代西洋におけるペットと人間の関係：パストラルの流行と飼い鳥趣味の発展					島森 尚子
13	現代社会における動物：野生動物の狩猟・捕獲と管理をめぐる問題					村上 隆広
14	現代社会における動物：社会学からみた国内外の伴侶動物と人間の関係性					新島 典子
15	現代社会における動物：死生観と動物観、ペットロスの予防、現状への取り組みと課題					新島 典子
履修上の注意						
授業時間外学修として、授業中に紹介する関連書籍、新聞（地方新聞を含む）を精読しておくこと。						
評価方法（評価基準を含む）						
評価法：課題レポート（80%）、授業への参加姿勢（20%）により統合的に評価 基準：到達目標の達成度を見るため適宜課題に関するレポートを作成・提出させる。 フィードバック：課題ごとの解説を行う。						
教科書						
必要に応じて授業等で通知する。						
参考書、教材等						
授業中に、参考書を適宜紹介する。 授業中に、適宜、教材プリントを配布する。						

授業科目	動物人間関係学演習		科目コード	312-S	担当教員	新島 典子・長島 孝行 島森 尚子・村上 隆広 フリッツ 吉川 綾
科目英名	Seminar in Animal-Human Relations					
開講期間	1年次 前期	選択科目 1単位	科目区分	基礎科目		
到達目標						
動物と人間の関係について、①狩る、飼う(②家畜化)、③ペットと、そのもとになる各社会、文化の④動物観の4つの視点から、実際の課題に対する解決法を自分なりの考えで説明できる。						
講義概要						
人間と動物のつながりについて、具体的な題材を使って、質的量的両面の研究方法を学び理解する。具体的には、フィールドワーク、調査やデータベース分析・解読を行うための研究方法を修得する。担当教員がそれぞれの専門分野で著した成書、論文を例に、文献検索、文献収集、フィールドワーク及び、アニマルテクノロジーの社会実装など紹介する。また学生自らが把握したこれらに関する情報のディスカッション及びプレゼンテーションを行う。						
授業計画						担当教員
1	動物人間関係学の調査・研究方法					長島 孝行
2	社会学的視点にもとづく伴侶動物と人の関係性に関する国内外の文献検索・収集					新島 典子
3	社会学研究法にもとづくデータ処理基礎・応用					新島 典子
4	学生討論及びプレゼンテーション					新島 典子
5	家庭動物の問題行動の調査に関する文献検索・収集					フリッツ 吉川 綾
6	家庭動物の問題行動に関わるサービスについての情報収集					フリッツ 吉川 綾
7	家庭動物の問題行動への取り組みに関する学生討論及びプレゼンテーション					フリッツ 吉川 綾
8	フィールドワークの安全対策と野生動物調査の実際1					村上 隆広
9	フィールドワークの安全対策と野生動物調査の実際2					村上 隆広
10	フリーウェアを利用したデータ解析の基礎					村上 隆広
11	アニマルスタディーズ分野における研究方法の基礎					島森 尚子
12	アニマルスタディーズ分野における研究方法の実際1					島森 尚子
13	アニマルスタディーズ分野における研究方法の実際2					島森 尚子
14	アニマルテクノロジー研究の基礎					長島 孝行
15	アニマルテクノロジーの社会実装					長島 孝行
履修上の注意						
図書館の文献検索システムに慣れておくこと。 インターネットを利用したNCBI 遺伝子・ゲノム情報データを利用するので、コンピューターのブラインドタッチを修得しておくこと。Moodleを利用して掲示、授業参考資料などを配布するので、注意を怠らないこと。						
評価方法(評価基準を含む)						
評価法：学生自らが行う発表(40%)、討論への取り組み状況(60%)を考慮した統合的な評価 基準：到達目標の達成度を見るため適宜討論・発表させる。 フィードバック：課題ごとの解説を行う。						
教科書						
必要に応じて授業等で通知する。						
参考書、教材等						
授業中に適宜、参考書を紹介する。 授業中に適宜、プリントを配布する。						

授業科目	ヒトと動物の環境科学特論		科目コード	313-L	担当教員	山田 文也・石川 牧子
科目英名	Advanced Course of Environmental Science of Human and Animal					
開講期間	1年次 前期	必修科目 2単位	科目区分	基礎科目		
到達目標						
環境科学の現状を理解し、様々な環境問題を把握し、その対応について動物看護学に関連づけて考察し、説明することができる。						
講義概要						
<p>伴侶動物を除けば人間と他の動物との間に、かつては一定の距離が保たれていた。しかし、極度の自然開発による野生動物由来新興感染症の発生、エキゾチックアニマルのペット化、種々の汚染物質の環境への放出による公害病に先んじた動物の疾病など、近年、人間と他の生き物との関係が変化しつつある。他の動物が生存できない環境では、いずれ人間の生存も危うくなる。そこで、多くの分野の研究者が協力して種々の環境問題を解決しようとするのが環境科学である。本特論では日本列島をはじめとする地域固有の自然生態系における特定外来生物や環境汚染の影響の特性、それらにより発生した動物由来感染症の流行などの動物看護学分野に関連した環境問題と、問題に対してどのような対応がなされてきたのかを教授する。また、海洋・陸域の汚染やそれらによる人間や愛玩動物への健康被害の可能性など最近の世界的な問題についても教授する。</p>						
授業計画						担当教員
1	環境科学とは何か、環境科学の現状と問題点					石川 牧子
2	環境を評価するには（環境指標生物、環境基準）					石川 牧子
3	生物と化学物質（毒性、生態リスク評価、生物濃縮、生殖への影響）					石川 牧子
4	生物多様性と固有の生物相（陸域、島嶼、海洋、日本列島）					石川 牧子
5	自然生態系の成立と破壊（自然要因と人為的要因、環境汚染、自然開発）					石川 牧子
6	環境汚染と感染症の流行の関係					山田 文也
7	自然開発と動物由来感染症の流行の関係					山田 文也
8	気候変動と動物由来感染症の流行の関係					山田 文也
9	生活環境の変化（産業動物・伴侶動物・野生動物）と感染症の関係					山田 文也
10	産業動物と食中毒の関係、食肉確保の現状（カンピロバクター食中毒、CSF など）					山田 文也
11	感染症の流行に介在する動物（新型コロナウイルス、SFTS など）					山田 文也
12	各種輸送機関の発達と感染症流行の関係（インフルエンザ、ジカ熱など）					山田 文也
13	産業・人間生活を原因とした環境汚染物質の排出と疾病の関係					山田 文也
14	最近の問題と取り組み（陸域、沿岸域の特定外来生物、競争・捕食、在来種や愛玩動物への影響と対策）					石川 牧子
15	最近の問題と取り組み（河川・海洋・陸域の汚濁・汚染）					石川 牧子
履修上の注意						
事前に関連事項を調べて予習しておくこと						
評価方法（評価基準を含む）						
<p>評価法：課題レポート（80%）、授業への参加姿勢（20%）により総合的に評価する 基準：様々な環境問題を理解し、動物看護学の知識に基づくその対応について考察できること フィードバック：課題や質問は、返却課題内のコメントや講義内でフィードバックする。</p>						
教科書						
指定なし						
参考書、教材等						
指定なし。講義内で適宜参考資料を配布する。						

授業科目	動物看護教育特論		科目コード	412-L	担当教員	山崎 薫・山田 文也
科目英名	Advanced Course of Animal Health Education					
開講期間	1年次 後期	必修科目 1単位	科目区分	基礎科目		
到達目標						
<p>動物医療を含むペット関連市場が拡大する中で、愛玩動物看護師の国家資格が法制化された現状に鑑み、動物看護教育の歴史及び現在の教育制度の現状を把握した上で、動物看護教育の養成所等で教育・指導に携わる人材の養成のため、その教育施設（実習室、飼育管理室等）や動物病院等の公衆衛生及び衛生管理の知識を修得する。</p>						
講義概要						
<p>動物看護の養成所、及び動物看護・臨床等の現場で教育・指導の役割を担う動物看護師は、教育・実践領域において系統的な教育活動及び衛生管理教育を行えるよう基本的知識を修得し、動物看護教育制度や体制の課題を検討の上、問題解決に向けた方法を考察する必要がある。</p> <p>本講義では、我が国と諸外国における動物看護教育の歴史と変遷、動物看護教育の制度と現状や、愛玩動物看護師法と動物看護教育の課題について教授し、併せて、人獣共通感染症の観点から、動物看護師の養成所の他、動物看護師が勤務する動物病院・研究所等における公衆衛生や、動物関連産業（ペットショップ・グルーミングサロン等）・動物福祉施設（動物シェルター等）での公衆衛生について教授する。</p>						
授業計画						担当教員
1	日本における動物看護教育の歴史と変遷					山崎 薫
2	諸外国における動物看護教育の歴史と変遷					山崎 薫
3	動物看護教育の制度と現状					山崎 薫
4	愛玩動物看護師法と動物看護教育の課題					山崎 薫
5	動物看護教育養成所等の教育施設、特に動物を使用する実習室・動物飼育管理室等の公衆衛生					山田 文也
6	動物病院・研究所等における公衆衛生					山田 文也
7	動物関連産業（ペットショップ・グルーミングサロン等）・動物福祉施設（動物シェルター等）での公衆衛生					山田 文也
8	まとめ					山崎 薫
履修上の注意						
特になし						
評価方法（評価基準を含む）						
<p>評価法：課題レポート（70%）、授業への参加姿勢（30%）により総合的に評価する。 基準：到達目標の達成度を見るため適宜課題に関するレポートを作成・提出させる。 フィードバック：課題ごとの解説を行う。</p>						
教科書						
指定なし						
参考書、教材等						
<p>授業中に、参考書を適宜紹介する。 授業中に、適宜、教材プリントを配布する。</p>						

授業科目	研究方法論		科目コード	611-L	担当教員 今村 伸一郎・梅村 隆志 櫻井 富士朗・鈴木 光行 山田 文也・島森 尚子 村上 隆広・新島 典子
科目英名	Research Methods				
開講期間	1年次 前期	必修科目 1単位	科目区分	基礎科目	
到達目標					
動物看護における研究を実施するためにはテーマの選定が非常に重要である。必要な技術や倫理的配慮について深く理解し、テーマの選定から研究方法、自ら修士論文にまとめるプロセス等を理解することを目的とし、特別研究につなげる。					
講義概要					
動物看護における研究の目的を明示し、研究を実施するための方法や機器、材料の採取法やその際に必要な対象者への倫理的配慮、得られたデータの取り扱い方や解析法、文献研究の方法、アンケート調査の方法、フィールドワーク、さらに論文へ至るまでのプロセスや課題、研究テーマの例などを各分野の別に学修し、これらの学修に基づいて、特別研究のテーマ選定の一助とする。また、修士論文指導担当教員は、当該分野に関わる国内外の論文を紹介する。					
授業計画			授業計画		
1	研究テーマの選定と研究方法について		梅村 隆志		
2	動物解剖生理学・動物病理学分野の研究及び研究方法		今村・梅村		
3	動物検査学・動物内科学分野の研究及び研究方法		鈴木・櫻井		
4	動物関連公衆衛生学分野の研究及び研究方法		山田 文也		
5	野生動物学分野の研究および研究方法		村上 隆広		
6	ペットの社会学（ペットロス）分野の研究及び研究方法		新島 典子		
7	動物文化誌・動物文学分野の研究および研究方法		島森 尚子		
8	得られたデータの社会への還元と研究発表		梅村 隆志		
履修上の注意					
各分野の研究や研究方法を理解することは、研究テーマの選定や実際の研究に有用であるため、授業計画に基づき、理解を深めること。					
評価方法（評価基準を含む）					
評価法：課題レポート（80%）、授業への参加姿勢（20%）により総合的に評価する。 基準：到達目標の達成度を見るため適宜課題に関するレポートを作成・提出させる。 フィードバック：課題ごとの解説を行う。					
教科書					
資料を配布する。					
参考書、教材等					
適宜紹介する。					

授業科目	応用動物看護学 I		科目コード 221-L	担当教員 今村 伸一郎・梅村 隆志
科目英名	Practical Animal Health Technology I			
開講期間	1年次 後期	選択科目 2単位	科目区分	専門科目〔動物看護学領域〕
到達目標				
動物看護学を理解修得する上で必要不可欠となる医学的基礎知識の重要性についてしっかりと認識し、何が正常で何が異常なのかを見分ける力をつける。その上で動物臨床看護学への応用発展につながるよう、その知識を活用できる力を養うことを目的とする。				
講義概要				
解剖学、生理学、病理学は、医学や獣医学を学ぶ基礎・土台となる3本柱で、動物看護学を学ぶ上においても極めて重要である。臨床場面において、これら基礎知識の学修の上に、これらをさまざまな臨床場面で応用ができて初めて問題解決が可能となる。そこで本講義では、動物看護学特論で学修したことを基に、この3本柱のうち、特に中核となる骨格・筋肉の支持組織・循環器・消化器・神経・生殖器などの機能や炎症や腫瘍の分野について、受講者間で討論しながら、専門家としての理解の定着を図る。				
授業計画				担当教員
1	骨格の成り立ちを機能面と関連させる			今村 伸一郎
2	筋肉の構成を機能面と関連させる			今村 伸一郎
3	循環器系と呼吸器系が有する全身機能の中の役割			今村 伸一郎
4	消化器系とエネルギー産生系			今村 伸一郎
5	神経・感覚器系の全身統合			今村 伸一郎
6	免疫系の役割			今村 伸一郎
7	生殖器系と遺伝、種の保存			今村 伸一郎
8	ホメオスタシス			今村 伸一郎
9	炎症の分子病理学（発熱の分子メカニズム）			梅村 隆志
10	炎症の分子病理学（疼痛の分子メカニズム）			梅村 隆志
11	炎症の分子病理学（抗炎症作用の分子メカニズム）			梅村 隆志
12	腫瘍病理学（腫瘍形成に係る遺伝子異常）			梅村 隆志
13	腫瘍病理学（がん悪性化に係る microRNA と Exosome）			梅村 隆志
14	腫瘍病理学（がん治療薬開発における最新の動向）			梅村 隆志
15	環境因子による疾病誘導とその予防			梅村 隆志
履修上の注意				
医学基礎分野は臨床分野の土台となることを常に念頭に置きながら、自らの中に概念や理論の構築を行うことを心がけてほしい。				
評価方法（評価基準を含む）				
評価法：課題レポート（80%）、授業への参加姿勢（20%）により総合的に評価する。 基準：到達目標の達成度を見るため適宜課題に関するレポートを作成・提出させる。 フィードバック：課題ごとの解説を行う。				
教科書				
特に指定しないが、必要に応じ、指定する可能性あり。 さらに必要に応じて資料を配布する。				
参考書、教材等				
適宜紹介する。				

授業科目	応用動物看護学演習 I		科目コード	223-S	担当教員	今村 伸一郎・梅村 隆志
科目英名	Seminar in Practical Animal Health Technology I					
開講期間	2年次 前期	選択科目 1 単位	科目区分	専門科目〔動物看護学領域〕		
到達目標						
<p>応用動物看護学 I で修得した知識を、動物看護学の中にどう生かしていくことができるのか、解剖生理学、病理学分野の最新の知見を入手し、あるいは手法の実践を通して、その内容をしっかりと説明できるようになる。</p>						
講義概要						
<p>動物看護学を理解修得する上で必要不可欠となるのが医学基礎分野である解剖生理学、病理学分野の知識、知見となる。本演習では、動物看護学演習で学修した内容を基に、それら分野の最新知見に関する文献等を検索、入手し、その内容について正しく理解できるように指導するとともに、ディスカッション、プレゼンテーションを通して、当該分野が動物看護学領域においてどのような意義を有するのか自ら発見し、解決する能力を涵養する。</p>						
授業計画						担当教員
1	イヌとネコの骨格関節構造の比較（軸性骨格）					今村 伸一郎
2	イヌとネコの骨格関節構造の比較（付属性骨格）					今村 伸一郎
3	肉食動物と草食動物の消化器構造の比較（消化管）					今村 伸一郎
4	肉食動物と草食動物の消化器構造の比較（消化腺）					今村 伸一郎
5	鳥類と哺乳類の循環器系、呼吸器系の比較（循環器系）					今村 伸一郎
6	鳥類と哺乳類の循環器系、呼吸器系の比較（呼吸器系）					今村 伸一郎
7	動物看護学における比較解剖生理学の重要性（イヌとネコの違い）					今村 伸一郎
8	動物看護学における比較解剖生理学の重要性（イヌ、ネコ以外の動物）					今村 伸一郎
9	特殊染色法（PAS 染色、鍍銀染色ほか）による腫瘍分類					梅村 隆志
10	特殊染色法（PAS 染色、マッソントリクローム染色ほか）による炎症分類					梅村 隆志
11	特殊染色法（フィブリノイド染色ほか）による血栓・線溶系異常の把握					梅村 隆志
12	免疫染色法を用いたタンパク質局在解析による分子病態把握					梅村 隆志
13	蛍光免疫染色法を用いたタンパク質局在解析による分子病態把握					梅村 隆志
14	表面抗原特異的認識手法による細胞分類と病態把握					梅村 隆志
15	in situ Hybridization 法を用いた mRNA 局在解析による分子病態把握					梅村 隆志
履修上の注意						
<p>今までに学んできた解剖生理学、病理学分野の基礎的内容について、再度知識の確認を行い、何が最新の情報になるのか、見極める準備をしてほしい。</p>						
評価方法（評価基準を含む）						
<p>評価法：課題レポート（80%）、討論への取り組み状況（20%）により総合的に評価する。 基準：到達目標の達成度を見るため適宜課題に関するレポートを作成・提出させる。 フィードバック：課題ごとの解説を行う。</p>						
教科書						
<p>特に指定しないが、必要に応じ、指定する可能性あり。 さらに必要に応じて資料を配布する。</p>						
参考書、教材等						
<p>適宜紹介する。</p>						

授業科目	応用動物看護学Ⅱ		科目コード 222-L	担当教員 鈴木 光行・櫻井 富士朗
科目英名	Practical Animal Health Technology II			
開講期間	1年次 後期	選択科目 2単位	科目区分	専門科目〔動物看護学領域〕
到達目標				
動物の各種疾患の特徴について、症状や検査データの異常に基づいて病態を把握し、動物体内成分の動態変化に応じた専門的看護に関する理論・実験の理解を深め、研究の基礎を培うことを目標とする。				
講義概要				
愛玩動物の腎疾患や肝疾患や白血病や多発性骨髄腫や血液学的先天異常、貧血、循環器、内分泌・呼吸器・消化器・感染症疾患などの各種疾患に起因する症状や異常データについて、その原因となる物質の体内動態やシステムとメカニズムについて学修し、これらの病態に応じた専門的看護の研究を推進するための理論・実験・看護法について、担当教員の研究論文を紹介しながら、その理解を深め、修士論文執筆に備えることができるように教授する。				
授業計画				担当教員
1	哺乳動物及び鳥類の血液と生体防御			鈴木 光行
2	エキゾチックアニマルの血液と生体防御			鈴木 光行
3	腎疾患における血清・尿成分の変化と原因解析			鈴木 光行
4	肝疾患における血清・尿成分の変化と原因解析			鈴木 光行
5	白血病における血球・血清成分のデータ異常の原因解析			鈴木 光行
6	多発性骨髄腫における血球・血清・尿成分のデータ異常の原因解析			鈴木 光行
7	貧血症における血球・血清成分のデータ異常の原因解析			鈴木 光行
8	消化器疾患動物における病態、検査と看護法			櫻井 富士朗
9	循環器疾患動物における病態、検査と看護法			櫻井 富士朗
10	呼吸器疾患動物における病態、検査と看護法			櫻井 富士朗
11	内分泌疾患動物における病態、検査と看護法			櫻井 富士朗
12	泌尿器疾患動物における病態、検査と看護法			櫻井 富士朗
13	感染症罹患動物における病態、検査と看護法			櫻井 富士朗
14	エキゾチック動物における病態、検査と看護法			櫻井 富士朗
15	動物看護教育法の実践と現状			櫻井 富士朗
履修上の注意				
授業中に配布した資料や紹介した参考書や教材をあらかじめ精読しておくこと。				
評価方法（評価基準を含む）				
評価法：課題レポート（80%）、授業への参加姿勢（20%）により総合的に評価する。 基準：到達目標の達成度を見るため適宜課題に関するレポートを作成・提出させる。 フィードバック：課題ごとの解説を行う。				
教科書				
資料等を配布する。				
参考書、教材等				
適宜紹介する。				

授業科目	応用動物看護学演習Ⅱ		科目コード	224-S	担当教員	鈴木 光行・櫻井 富士朗
科目英名	Seminar in Practical Animal Health Technology II					
開講期間	2年次 前期	選択科目 1単位	科目区分	専門科目〔動物看護学領域〕		
到達目標						
動物の各種疾患における症状や異常データの原因となる血液・血清成分の体内動態解析法について、実技、討論、課題まとめを通して学修し、各種疾患に罹患した動物に対する看護に関する理論・実験方法に関する理解を深め、研究の基礎とすることを目標とする。						
講義概要						
演習により、愛玩動物の血液の形態学的及び生理学的な正常状態を理解し、腎疾患、肝疾患、白血病、多発性骨髄腫、Hb異常症、貧血、循環器疾患、内分泌疾患、呼吸器疾患、消化器疾患、感染症などにおける血球、血清、尿などの各種成分の体内動態やデータ異常発生のシステムとメカニズムについて理解を深め、これらの異常を察知し、病態に応じた専門的看護を行うための研究を推進する理論・実験法・看護法について、実技、討論、課題まとめなどを通して学修し、修士論文執筆に備えることができるように教授する。						
授業計画						担当教員
1	哺乳動物、鳥類、その他の動物の血球の成熟過程と形態比較					鈴木 光行
2	哺乳動物、鳥類、その他の動物の血清・成分の代謝解析と比較					鈴木 光行
3	腎疾患における血液・尿検査データ管理とパニックバリューの発見					鈴木 光行
4	肝疾患における血液・尿検査データ管理とパニックバリューの発見					鈴木 光行
5	白血病における血液検査データ管理とパニックバリューの発見					鈴木 光行
6	多発性骨髄腫における血液・尿検査データ管理とパニックバリューの発見					鈴木 光行
7	貧血症における血液検査データ管理とパニックバリューの発見					鈴木 光行
8	ネコの身体検査法、救急医療における看護法					櫻井 富士朗
9	泌尿器疾患におけるカテーテル挿入、尿検査と看護法					櫻井 富士朗
10	繁殖学・イヌの出産の補助と臍帯結紮、人工呼吸と看護法					櫻井 富士朗
11	消化器疾患における病態と看護法、摘便法					櫻井 富士朗
12	エキゾチック動物(ウサギ・小鳥・ハムスター)の保定法と看護法					櫻井 富士朗
13	外耳炎の処置、耳そうじ、耳鏡検査法、耳血腫の処置					櫻井 富士朗
14	局所感染症・膿瘍の処置、褥瘡の看護法、採血法					櫻井 富士朗
15	乳腺腫瘍の触診観察法と膀胱の超音波診断					櫻井 富士朗
履修上の注意						
授業中に配布した資料や紹介した参考書や教材をあらかじめ精読しておくこと。						
評価方法（評価基準を含む）						
評価法：課題レポート（80%）、討論への取り組み状況（20%）により総合的に評価する。 基準：到達目標の達成度を見るため適宜課題に関するレポートを作成・提出させる。 フィードバック：課題ごとの解説を行う。						
教科書						
資料等を配布する。						
参考書、教材等						
適宜配布する。						

授業科目	応用動物人間関係学 I		科目コード	321-L	担当教員	山田 文也
科目英名	Applied Science on Animal-Human Relations I					
開講期間	1 年次 後期	選択科目 2 単位	科目区分	専門科目〔動物人間関係学領域〕		
到達目標						
人間と動物の関係における歴史的経緯、地域（国による）差、現在問題となっているヒトと動物の共通感染症、汚染物質が動物に与える影響、害獣などの問題点とそれらへの取り組みを理解し、説明できる能力を修得することを到達目標とする。						
講義概要						
サルから別れたヒトは、他の野生動物を食料とする食物連鎖の頂点に立った。そして、野生動物を追い立てるために狼を飼育して狩猟犬とし、野生動物も家畜化した。家畜化された動物は人間の食料となる産業動物や使役のための動物となり、狩猟犬は伴侶動物となった。さらに、人間の興味や学習のために展示動物が生まれ、科学や医学の発達のために実験動物が生まれた。このように、人間と動物は地球上で様々な関係を保ちながら共存してきたのであるが、この長い歴史の間にはヒトと動物の共通感染症、化学物質による人間と動物の疾病、さらに近年は、野生動物種の急激な減少、害獣による被害などが起こっている。このような状況に鑑み、人間・動物共生の歴史と宗教的背景の概要、生物多様性・遺伝的多様性・食物連鎖、ヒトと動物の共通感染症・新興・再興感染症、化学物質による食品原材料の汚染と疾病、生物モニタリング、害獣・特定外来生物による被害と管理、伴侶動物の位置づけと飼養管理、動物愛護と動物福祉について講義する。						
授業計画						
1	人間・動物共生の歴史の概要（食糧、皮革、燃料、骨格器、薬）					
2	人間・動物共生の歴史の概要（欧米、アジア、日本）					
3	人間・動物共生に関連した宗教的背景の概要					
4	生物多様性・遺伝的多様性、食物連鎖					
5	産業動物とヒトの共通感染症、及び自然毒によるヒトと動物の中毒					
6	使役動物とヒトの動物の共通感染症、及び自然毒によるヒトと動物の中毒					
7	伴侶動物・野生動物とヒトの共通感染症及び新興・再興感染症					
8	化学物質による食品原材料の汚染と疾病（公害病と動物の疾病の関係）					
9	化学物質による食品原材料の汚染と疾病（猫踊り病、ダークオイル中毒）					
10	化学物質による食品原材料の汚染と疾病（抗菌物質、ホルモン剤、動物用医薬品と耐性菌）					
11	生物モニタリングの歴史と問題点					
12	生物モニタリングの現状					
13	特定外来生物によるヒトと動物の健康被害、及び人間の生活環境を乱す害獣					
14	伴侶動物の位置づけと飼養管理					
15	動物愛護と動物福祉					
履修上の注意						
事前に関連事項を調べて予習しておくこと。						
評価方法（評価基準を含む）						
評価法：課題レポート（80%）、授業への参加姿勢（20%）により総合的に評価する 基準：到達目標の達成度を見るため適宜課題に関するレポートを作成・提出させる。 フィードバック：課題ごとの解説を行う。						
教科書						
指定なし						
参考書、教材等						
指定なし						

授業科目	応用動物人間関係学演習 I		科目コード	323-S	担当教員	山田 文也
科目英名	Sminar in Applied Science on Animal-Human Relations I					
開講期間	2年次 前期	選択科目 1単位	科目区分	専門科目〔動物人間関係学領域〕		
到達目標						
<p>事前に与えられたテーマに関して、講義で修得した知識と学生が自ら幅広く調べた知見を独自の考え方でまとめ、その概要を的確に説明できる能力を涵養すると共に、問題への対応策を論理的に組み立てる能力を修得することを到達目標とする。</p>						
講義概要						
<p>本演習では、人類と動物の共生の歴史や宗教的背景、生物多様性の問題、ヒトと動物の共通感染症、化学物質による食品汚染、害獣・外来生物被害など、動物関連公衆衛生学分野のテーマについて、学生自らが予め文献を収集して授業時間中に科目を選択した学生間で討論しあい、当該分野における問題点を発見し、それらの問題に対する動物看護学領域としての対応策を考えることにより、自ら問題を解決する応用能力を涵養する。</p>						
授業計画						
<p>学生は、下記 2～15 回に関してそれぞれ関連する複数の文献を各自が収集する。授業ごとに収集した文献に関して学生間で討論後（担当教員が討論をサポートする）、各自の意見を加えてまとめ、レポートとして提出する。</p>						
1	文献収集の方法、討論・まとめ方などについて説明					
2	人・動物共生の歴史と宗教的背景（日本と諸外国との差）					
3	生物多様性・遺伝的多様性					
4	食物連鎖と食物連鎖に起因した疾病					
5	産業動物とヒトの共通感染症（感染環とヒトと動物の症状、防疫対策）					
6	伴侶動物とヒトの共通感染症（感染環とヒトと動物の症状、防疫対策）					
7	野生動物とヒトの共通感染症（感染環とヒトと動物の症状、防疫対策）					
8	新興・再興感染症（感染環とヒトと動物の症状、防疫対策）					
9	生物モニタリングの現状と問題点					
10	特定外来生物による被害と対策（環境被害、日本の固有野生動物への被害、対策）					
11	特定外来生物による被害と対策（産業動物・伴侶動物、ヒトでの健康被害、対策）					
12	害獣による被害の現状と管理					
13	化学物質による食品原材料の汚染（HACCP の現状）					
14	伴侶動物の位置づけの変遷と飼養管理					
15	動物愛護と動物福祉についての国内外の比較（法的規制、動物虐待の現状を含む）					
履修上の注意						
事前に与えられたテーマについて、各自で文献を収集すること						
評価方法（評価基準を含む）						
<p>評価法：課題レポート（80%）、討論への取り組み状況（20%）により総合的に評価する 基準：到達目標の達成度を見るため適宜課題に関するレポートを作成・提出させる。 フィードバック：課題ごとの解説を行う。</p>						
教科書						
指定なし						
参考書、教材等						
指定なし						

授業科目	応用動物人間関係学Ⅱ		科目コード 322-L	担当教員 長島 孝行・新島 典子 島森 尚子・村上 隆広 フリッツ 吉川 綾
科目英名	Applied Science on Animal-Human Relations Ⅱ			
開講期間	1年次 後期	選択科目 2単位	科目区分	専門科目〔動物人間関係学領域〕
到達目標				
動物と人間の関係性に関して、特徴的な動物の種類として、犬、猫、飼鳥、野生哺乳類との関係を取りあげ、それらに関する分子生物学的研究、社会学的研究、動物行動学的研究、野生動物学研究、これらの学際領域としての動物人間関係学的研究を解説する。学生みずから、動物と人間の関係性を多角的に説明できること、また、ペットをはじめとした、動物と人間に生じる課題解決のための能力を学生が自ら考える能力を身につけることを目標とする。				
講義概要				
「動物と人間の関係性」について、分子生物学、社会学、動物行動学、野生動物学、学際的学問分野である動物人間関係学の多様で幅広い視点から解説する。研究課題を理解し、課題解決のための能力を修得する。学生が修士論文の執筆に備えることができるように教授する。秋田犬と人、家庭犬と人、猫と人、鳥と人の関係、現代社会における動物と人の関係について、担当者の研究論文、成書を紹介し、解説する。秋田犬では本学図書館所蔵の秋田犬8ミリフィルムなどの資料も紹介し、解説する。				
授業計画				担当教員
1	動物と人間の関係性を多角的に研究する視点について			長島 孝行
2	秋田犬の分子生物学的研究：毛色・毛質に関わる遺伝子・ゲノム研究紹介			長島 孝行
3	秋田犬の分子生物学的研究：行動特性からみた遺伝子・ゲノム研究紹介			長島 孝行
4	秋田犬の動物人間関係学的研究：秋田犬の8ミリフィルム資料などを紹介、解説			長島 孝行
5	犬の動物行動学的研究：犬の行動原理の解釈			フリッツ 吉川 綾
6	犬の動物行動学的研究：犬の生理的反応及び行動に影響を与える要因の解説			フリッツ 吉川 綾
7	犬の動物行動学的研究：犬と飼い主の適切な関係性の構築方法			フリッツ 吉川 綾
8	飼い鳥と人間の関係研究：カナリアの伝播史研究紹介			島森 尚子
9	飼い鳥と人間の関係研究：「炭鉱のカナリア」に関する研究紹介			島森 尚子
10	野生動物と人間の関係研究：外来種問題の現状と解決のための課題			村上 隆広
11	野生動物と人間の関係研究：都市に生息、出没する野生動物問題の現状と解決のための課題			村上 隆広
12	ペットの社会学的研究：犬や猫と人間の関係性に起因して社会が抱える諸問題			新島 典子
13	ペットの社会学的研究：現代社会において飼い主の抱える諸問題			新島 典子
14	ペットの死生学的研究：犬や猫の終末期ケアや死別と現代日本の社会的背景			新島 典子
15	まとめ：学生討論と発表			新島 典子
履修上の注意				
授業時間外学修として、授業中に紹介する関連書籍、新聞（地方新聞を含む）を精読しておくこと。Moodleを利用して掲示、授業参考資料などを配布するので、注意を怠らないこと。				
評価方法（評価基準を含む）				
評価法：課題レポート（60%）、討論への取り組み状況（40%）により総合的に評価する。 基準：到達目標の達成度を見るため適宜課題に関するレポートを作成・提出させる。 フィードバック：課題ごとの解説を行う。				
教科書				
必要に応じて授業等で通知する。				
参考書、教材等				
授業中に、参考書を適宜紹介する。 授業中に、適宜、教材プリントを配布する。				

授業科目	応用動物人間関係学演習Ⅱ		科目コード	324-S	担当教員	長島 孝行・島森尚子 村上隆広・新島 典子 フリッツ 吉川 綾
科目英名	Sminar in Applied Science on Animal-Human Relations II					
開講期間	2年次 前期	選択科目 1単位	科目区分	専門科目〔動物人間関係学領域〕		
到達目標						
修士論文を執筆するための研究方法を、各担当教員の先行研究の方法から実践的に修得する。その演習を通じて、修士論文における自らの研究課題を先鋭化する。また、自らの研究課題を解決する能力を修得する。						
講義概要						
人と動物のつながりについて、長年にわたり人が保存管理してきた動物種などを扱い、担当教員がそれぞれの分野で著した成書、論文を例に、文献検索、文献収集、文献内容の把握を行う。また、フィールドワークの実践、遺伝子ゲノム解析・分析をディスカッションも含めて行う。						
授業計画						担当教員
1	動物と人間の関係性の調査・研究方法					長島 孝行
2	犬の動物学、分子生物学からみた秋田犬の論文検索					長島 孝行
3	犬の動物学、分子生物学からみた秋田犬の遺伝子ゲノム解析・分析					長島 孝行
4	秋田犬と人の関係に関する秋田犬8ミリフィルムアーカイブ資料の概要					長島 孝行
5	犬と飼い主の関係性に関する文献の収集と内容把握、プレゼンテーション					フリッツ 吉川 綾
6	犬の問題行動の発生要因に関する文献検索					フリッツ 吉川 綾
7	犬と飼い主の関係分析と問題行動対応策のプレゼンテーション					フリッツ 吉川 綾
8	飼い鳥に関するアニマルスタディーズ分野の英語文献読解：MLA方式解説					島森 尚子
9	アニマルスタディーズ分野の英語文献要約と引用ルールの実践					島森 尚子
10	野生動物学におけるフィールドワーク研究					村上 隆広
11	野生動物学におけるフィールドデータの分析					村上 隆広
12	社会的視点による犬や猫と飼い主の関係性に関する文献の収集と内容把握					新島 典子
13	犬や猫の終末期ケアや死別に関する文献の内容把握・討論					新島 典子
14	犬や猫の終末期ケアや死別に関わるフィールドワークの実践					新島 典子
15	犬や猫の終末期ケアや死別に関わるフィールドワークの分析、発表、まとめ					新島 典子
履修上の注意						
授業時間外学修に、図書館資料検索システムに慣れておくこと。						
評価方法（評価基準を含む）						
評価法：課題発表（40%）、討論への取り組み状況（60%）により総合的に評価する 基準：到達目標の達成度を見るため適宜課題に関するレポートを作成・提出させる。 フィードバック：課題ごとの解説を行う。Moodleを利用した掲示、授業参考資料などを配布するので、注意を怠らないこと。						
教科書						
必要に応じて授業等で通知する。						
参考書、教材等						
授業中に適宜、参考書を紹介する。 授業中に適宜、プリントを配布する。						

授業科目	インターンシップ		科目コード	521-I	担当教員	梅村 隆志
科目英名	Internship					
開講期間	2年次 通年	選択科目 1単位	科目区分	インターンシップ		
到達目標						
<p>高度医療救命救急センターの概要・役割について理解できる。 高度医療救命救急センターでの治療・手術・入院管理などチーム医療を理解できる。 MRI、CT、各種検査機器など、特殊検査機器の使用準備・管理等を理解できる。</p>						
講義概要						
<p>本インターンシップでは、ヤマザキ動物看護大学構内に併設されている「ER 八王子動物高度医療救命救急センター」において、Emergency Rescue（救命救急）の現場における治療・手術・入院管理に対する、高度動物看護医療体制について学修する。</p> <p>同センターでは、手術項目として、一般動物診療施設では扱えない開心術や開頭術をはじめ、脊髄系手術、腫瘍系手術、さらに手術では難しいとされる胆のう系手術などを手がけていることから、これらの手術に必要な特殊手術器具の準備、扱い、術中モニタリング管理、術後の疾患ごとのきめ細かい管理などの知識と技術を実際の現場を通じて修得する。</p> <p>また、高度医療救命救急センターにおいて愛玩動物看護師は、MRI、CT、各種検査機器など、特殊検査機器の使用準備にも関わる必要があることから、これら先端機器に関する知識・管理等について教授する。</p>						
授業計画						
<p>本インターンシップは以下の①～③順序で実施する。</p> <p>① 事前カンファレンス 履修者がインターンシップをスムーズに行えるように MRI、CT、各種検査機器の測定原理、緊急手術・高難度手術適応疾患の病態、術前・術中・術後管理における動物看護師の役割などについて事前指導を行う。</p> <p>② インターンシップ（2週間） 「ER 八王子動物高度医療救命救急センター」で高度救命救急のインターンシップを行う。</p> <p>③ 事後カンファレンス 履修者が、インターンシップ後に提出する報告書を基に術前の医療チームとのディスカッション内容、術中モニタリング管理の実際、術後管理における問題点などについてプレゼンテーションを行う。それを以て、インターンシップのまとめとする。</p>						
履修上の注意						
本インターンシップの履修は、愛玩動物看護師または認定動物看護師の有資格者に限る。						
評価方法（評価基準を含む）						
<p>評価法：インターンシップレポート 50%、研修態度 50% 基準：インターンシップレポート並びに事後カンファレンスにより到達目標の達成度を測る。 フィードバック：事後カンファレンス内にて行う。</p>						
教科書						
特になし						
参考書、教材等						
適宜紹介する。						

授業科目	特別研究		科目コード	621-R	担当教員 梅村 隆志・今村 伸一郎 鈴木 光行・富田 幸子 山田 文也・島森 尚子 村上 隆広・新島 典子 谷口 明子・石川 牧子 木村 祐哉
科目英名	Thesis Research				
開講期間	1 年次後期 2 年次通年	必修科目 10 単位	科目区分	特別研究	
到達目標					
<p>1.研究を立案し、計画をたて、それに基づいてデータを収集、解析できる。</p> <p>2.データに基づいて論文にまとめ、それを発表し、研究の成果についてわかりやすく説明できる。</p>					
講義概要					
<p>本特別研究では、指導教員の指導のもと、研究計画書を作成し、それに基づいてデータを収集し、解析し、論文としてまとめる能力を涵養する。また、それらの成果を、わかりやすく発表する能力と技能を修得する。</p> <p>今 村：まず、研究対象とする数種類の動物の骨格標本を実際に作製することにより、その骨格構造の実際のデータを抽出し、それを近縁または遠縁のさまざまな動物の骨格構造から得られたデータと比較することにより、研究対象動物の骨格の構造的特徴やその意義について解析し、動物看護の実践に資する研究を指導する。</p> <p>梅 村：病態把握のための形態学的並びに分子病理学的解析を学修する。具体的には酸化的 DNA 損傷をはじめとする各種 DNA 傷害の検出、特定蛋白質あるいは発現 mRNA の局在の検索を通して病態の病理発生を明らかにし、動物看護の実践に資する研究を指導する。</p> <p>鈴 木：検査データに基づいた正しい病態把握やそれに応じた適切な看護に貢献できるように、イヌ、ネコ、鳥類、魚類等の各種動物の血液や尿成分の分析法やそれらの成分の動態解析法に関する研究を指導する。さらに動物看護領域への新規技術の導入や新しい検査法の開発によって、動物看護の一層の発展に貢献できるように研究を指導する。</p> <p>富 田：胚発生の形態形成過程の時空間的 3 次元レベルの解析と分子シグナル解析による時空間的包括的検討を行う。また MRI や CT 情報に基づいた 3D 解析による正常と疾患動物の病態を解析する。正常と疾患を持つ動物の病態を知ることで動物看護実践の一助となるよう研究を指導する。</p> <p>山 田：人間集団を対象として疾病の予防、健康の保持及び増進に貢献する公衆衛生の目的を踏まえて、1) 生物モニタリングの手法を用いた各種の危害要因のヒトへのリスク評価、2) 動物との共生を目指すためのヒューマン・アニマルボンドの研究を指導する。</p> <p>島 森：愛玩動物を主軸に、動物が人間の文化形成に果たしてきた役割およびその変遷を、特に英国の長い 18 世紀を中心に研究指導する。ここでいう文化とは、主として文字による文化（広義の文学）を指すが、絵画、音楽などの Sister Arts にまで視座を拡大することも可能である。</p> <p>村 上：野生動物に関わる問題や種・群集について研究の不足している点をふまえ、どのようなアプローチで知見が得られるか方法を吟味する。そのうえで、実際にデータ収集と結果の分析を行い、野生動物学・動物看護学の両面で貢献できるように研究を指導する。</p> <p>新 島：伴侶動物として飼養される多様な動物種と人との様々な関係性、それが社会や人に及ぼす影響、動物観や死生観、終生飼養にむけた飼い主支援、ペットロス予防や対処法などについて、国内外での社会調査を含めた研究を社会的・死生学的視点から研究を指導する。</p> <p>谷 口：高度化・専門化する動物医療の現状を明らかにし、飼い主支援を含む動物看護師に求められる役割と実行するための方法を主に 2 次診療施設を対象に調査検討する。看護の特定の分野について水準の高い看護を効果的に行うための技術と知識の取得を可能にすることを目的に研究を指導する。</p> <p>石 川：現在の生物多様性や地球環境の成立過程の理解を目指し、主に海洋生物を対象として、形態形成、模様形成、食性解析を軸とした生命進化史研究を指導する。</p> <p>木 村：動物看護に必要な医療情報や飼育者の心理を追究するための量的研究および質的研究について教授し、適切な研究デザインによる科学的根拠を創出する知識・技能の修得可能を目標として研究指導する。</p>					

授業計画
<p>1-5. 研究課題の検討</p> <p>1) 探求したい問題や現象が研究課題となりうるかの検討</p> <p>2) 研究課題に対する文献検討による研究の背景の把握</p> <p>6-10. 研究方法の検討</p> <p>1) 概念の枠組み構成と仮説の検討</p> <p>2) 研究デザインの検討</p> <p>3) データ収集方法の検討</p> <p>11-12. 研究計画書の作成・研究対象者、研究協力施設との調整</p> <p>1) 研究課題・研究背景（先行研究・文献検討、研究枠組み等）</p> <p>2) 研究目的・意義</p> <p>3) 研究方法：研究デザイン・データ収集の方法・期間・データ分析法（材料収集、アンケート、インタビューガイド作成等）</p> <p>4) 安全性の確保（予想される有害現象と対策 人権・プライバシー保護に関する配慮）</p> <p>5) 研究依頼に関する検討（研究協力者・施設責任者への依頼方法、文書作成）</p> <p>13-14. 倫理審査委員会提出書類作成・申請手続き（機関・施設の基準に準拠する）</p> <p>15-30. データ収集・整理、保管</p> <p>データ分析、研究デザインに応じたデータ作成</p> <p>31-35. 中間報告会準備</p> <p>36-40. 中間報告会</p> <p>41-55. 修士論文の執筆</p> <p>1) 序論 2) 方法 3) 結果 4) 考察 5) 結論 6) 要約</p> <p>56-60. 研究発表会準備</p> <p>61-65. 研究発表会</p> <p>66-75. 修士論文の完成、提出、評価</p>
履修上の注意
特になし
評価方法（評価基準を含む）
<p>評価法：修士論文審査結果をもって評価する。</p> <p>基準：決められた書式、方法で修士論文を提出・発表させる。</p> <p>フィードバック：修士論文発表会に参加した各教員による質疑によって行う。</p>
教科書
文献資料等を配布する。
参考書、教材等
文献資料等を紹介する。